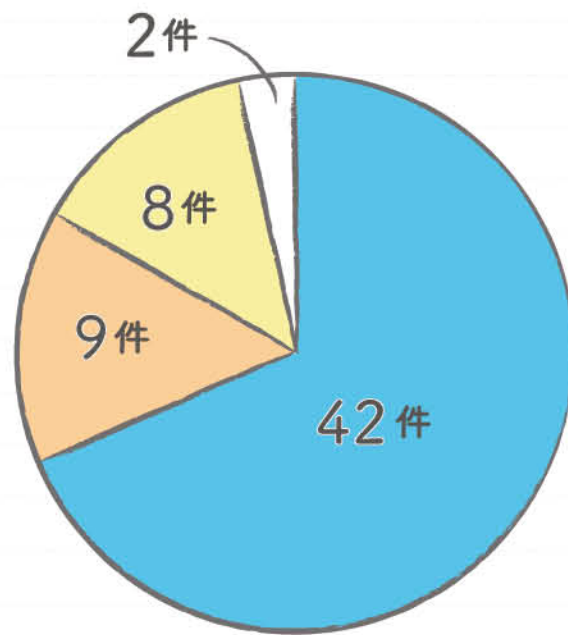


FUEIKI ^{vol. 75}



2020年度教育文化活動助成の状況

変更届内訳



2021/4/30現在

2020年度の教育文化活動助成は、助成件数144件、助成総額3000万円でした。2020年4月に発令した新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言を受け、助成対象期間を1年延長、活動の内容変更も受け付けることとしました。その結果、2021年度に活動を延期した団体42件、2020年度内で延期した団体9件、内容変更した団体8件、辞退した団体が2件、計61件の変更となっています。活動の内容変更は、対面の活動からオンラインへの切り替えや動画作成に関するものが多くみられました。

- 2021年度に延期
- 2020年度内で延期
- 活動内容変更
- 活動辞退

6月からは、「コロナ禍を乗り越えるための緊急助成」の募集を開始しました。この助成事業は、岡山県の教育文化活動を支援する公益法人として、ポストコロナ時代の活動を過去よりも、よりポジティブにするための実現性のある方法を提示し実践していただくための特別枠の助成金でした。33件の応募の中から助成件数22件、助成総額544万円を決定しました。活動内容は、学習オンライン支援の環境づくりや動画配信に関するものが多くみられました。

コロナ禍を乗り越えるための緊急助成

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 1 岡山県学童保育連絡協議会 | 12 岡輝中「対話」と「協同」研究協議会 |
| 2 学校法人アジアの風 岡山外語学院 | 13 一般社団法人日本学びクリエーション |
| 3 おかやま親子応援プロジェクト | 14 公益財団法人 新見美術振興財団 |
| 4 NPO法人バンクオブアーツ岡山 | 15 チーム職業体験学習 |
| 5 特定非営利活動法人だっぴ | 16 認定特定非営利活動法人ポケットサポート |
| 6 #おかやまJknote | 17 角ひろみ |
| 7 慶児遠代 配信コンサート実行委員会 | 18 公益財団法人 岡山文化芸術創造 |
| 8 RESAS活用教育推進委員会 | 19 一般社団法人 みるを楽しむ!アートナビ岡山 |
| 9 一般社団法人クニヨシパートナーズ | 20 NPO法人マザーリーフ |
| 10 山地真美 | 21 真備だっぴチーム |
| 11 CAN-Science | 22 まほろば庄内ヒューマンライツ研究会 |

助成総額:544万円

助成件数:22件

(2020年9月15日現在)

データでみる

教育文化活動助成白書

コロナ禍でも

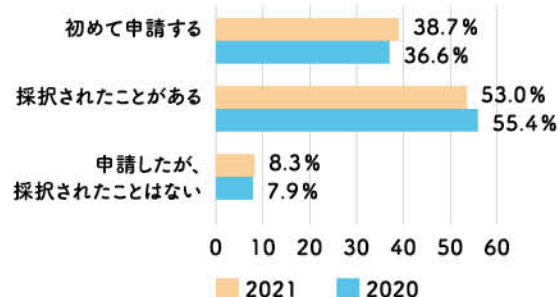
がんばる助成対象者

「さあ、これから助成活動スタートだ」と思っていた2020年春、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令。外出自粛が余儀なくされ、助成活動はどうなるのだろうかと不安な一年を過ごしました。コロナ禍での活動状況とともに、2021年度の採択について報告します。



—2020年度、2021年度

これまでに公募助成に申請したことがありますか？

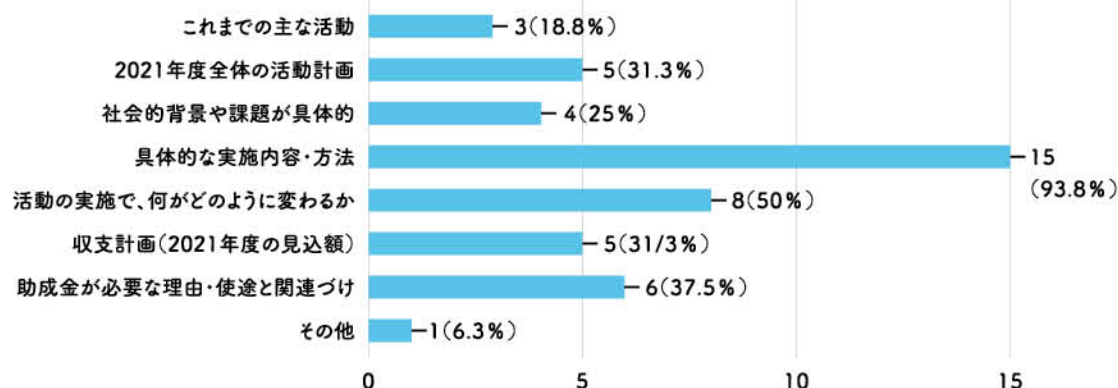


(申請書アンケートより)

審査委員は申請書にこんな添付資料があったらいいなと思っています

- ・ その団体の過去の事業の実施内容、参加人数などの事業を実施する力が分かるもの
- ・ 中心メンバーの経歴やこれまでの活動実績など
- ・ 参加プログラムの場合、参加者の声
- ・ 関与する専門家のプロフィールなど
- ・ 継続事業の場合は、活動実績や成果についてまとめたもの
- ・ 具体的な活動計画内容
- ・ これまでの実績・成果(新聞記事・関連記事やチラシなど)と、それを踏まえた今後の活動の展望

審査委員は申請書のどの項目に注目している？



審査を行う上での判断基準(決め手となるポイント)は？

- ・ 活動内容やその先の効果が、想像できるかどうか
- ・ 人と人、人と地域とのつながりが広がり、深まるものかどうか
- ・ 新しさ、オリジナリティ、楽しさ
- ・ 福武教育文化振興財団の助成金がなければできないことを優先
- ・ 助成で何をして、その結果として次年度以降どうなるか
- ・ 公益性に加え、事業内容の独自性を重視
- ・ 活動の発展や継続に役立ち、社会に効果的に還元されていくかどうか など

2021年度 教育文化活動助成 対象者一覧

- | | |
|------------------------|---------------------------------------|
| 1 アート列車を楽しむ会 | ※ 13 鹿子の木会 長鋪邸 |
| 2 あかいわ美土里の和 | 14 CLUB KIBI |
| 3 新しい「地域創成の物語」発見の会 | 15 稲子子ども会 |
| 4 一般社団法人 SGSG | 16 生活介護事業所ぬかつくとこ |
| 5 一般社団法人 岡山に夜間中学校をつくる会 | 17 建部獣皮有効活用研究所 |
| 6 一般社団法人 高梁川流域学校 | 18 玉野【里山★玉仙岩】の会 |
| 7 一般社団法人 よひせん協会 | 19 つやま演劇教育研究会 |
| 8 梅谷 真慈 | 20 合同会社 伝統工芸炭炭生産技術保存会 |
| 9 桜梅桃李 | 21 一般社団法人 なないろ |
| 10 大谷 archive | 22 新見公立大学 地域共生推進センタースチューデントアシスタント(SA) |
| 11 #おかやまJKnote | 23 新見でグラレコを学び、活用する会 |
| 12 オリーブの家 | 24 Neighbor Kitchen(ネイバーキッチン) |

助成総額:2,800万円

助成件数:118件

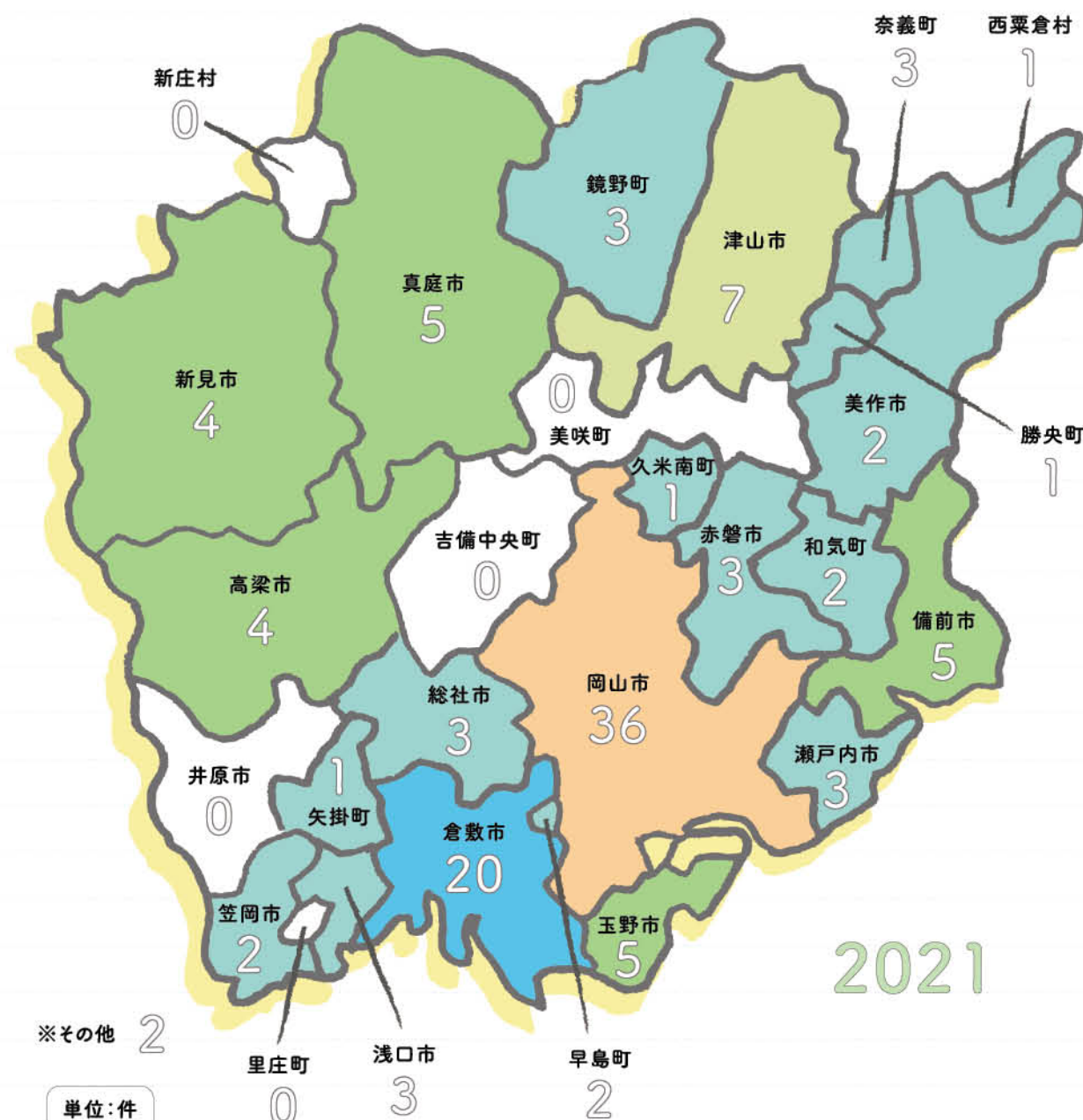
(2021年4月1日現在)

※3カ年継続助成
(2年次、3年次の6件を含む)

2021年度教育文化活動助成の採択状況

2021年度「教育文化活動助成」の対象者は118件、助成総額2,800万円に決定しました。昨年に比べ応募数は約30%減少し177件の応募でした。コロナ禍での活動状況を受けて「財団にできることは何か」「財団がすべきことは何か」を話し合い、例年45%の採択率を65%と高く設定し、コロナ禍の状況下でも積極的に活動したいという意欲ある申請に応えることとしました。教育と文化の市民活動が止まらないよう応援します。

市町村別採択数



単位:件

2021

2021年度助成対象者の声をお届け

アグリ魅力化支援会



代表 本行才泰さん

勝央町

多様化され複雑化される社会の中で新しい視点と独自の活動を自信をもって取り組んでください

この活動を始めるときに、教育や文化の活動を支援してくれる助成金があることを初めて知りました。3カ年継続助成の候補になつてますよ、どうしますかという決定通知の書類を見たとき、あわててメンバーに召集をかけました。メンバーだけではなく、農業の魅力を発信するPV(プロモーションビデオ)製作にご協力いただいた農家の方にも参加していただき、今後の展開について話し合いました。おかげで1年間の振り返りと共に、いろいろなアイデアが生まれました。地元高校生と連携し、高校生の視点で農業の魅力発信する動画作成「高校生×農業×映像」を軸に、小学生や中学生へのアプローチ、大学や企業を巻き込む企画、農業就業者と若者の交流など、この機会を活かしチャレンジしていきたいと思っています。

予定通りに進まないこともあるかと思いますが、財団へ気軽に相談されるとよいと思います。財団事務所に立ち寄り、財団が主催する交流会への参加もお勧めします。よいコミュニケーションをつくっていきましょう！

ありがとうファーム チームHUB Lab.



代表 深谷千草さん

岡山市

申請したきっかけは、「ありがとうファーム」の活動をたくさんの方に知っていただきたいという思いからです。資金面での応援はもちろんですが、活動の報告ができるということも魅力的でした。エコロ「は」は、地元企業からできるリサイクル廃材をアート素材として「創造力と社会循環の生まれる場所」を目指しています。レジャージェミリアアプローチをベースとしたワークショップを定期開催し、ありがとうファームのハンディキャップアーティストが運営を行いインクルーシブな場を作ります。また、「廃材でつくるオモテチョウひろば(create art music smile)」を子どもたちと作り、いろんなハンディキャップをもった方と地域とのボーダーをなくして、社会を豊かにしていく仕組みづくりに取り組んでいきたいと思っています。

鹿子の木会 長鋪邸



代表 山岡久美恵さん

笠岡市

助成金は「意思のある寄付」とも呼ばれ、助成財団単独では成し得ないことを、皆さんの活動を通じて社会で実現していくための手段でもあります。皆さまの活動を通じて、この岡山に本当の意味で豊かな人を育む土壌が形成されることを期待しています

地域社会の様々な課題に対して、アイデアに富んだ活動が展開されることを期待しています

2019年、知り合いに勧められて申請しましたが不採択でした。もう申請はあきらめていたが、「一度であきらめてはダメです」とまた別の方に背中を押していただき、再度チャレンジしました。今回採択され、しかも3カ年継続助成に選ばれて、とても嬉しい一面、プレッシャーを感じています。笠岡の町が変わっていく様を見ていて、長鋪邸は残したいという気持ちが強くなりました。ただ残すだけではなく、活動の場として、笠岡の歴史を知る場として、自然を感じる場として、活用してもらうことを目指しています。そのための持続可能な仕組みづくりを、メンバーと共に取り組んでいきます。3年後は78歳ですが、メンバーといくと楽しいので、頑張ります。

OKUTSU芸術祭実行委員会



代表 辻本高廣さん

鏡野町

申請は3回までしかできないと、なぜか勝手に思い込んでいました。そう思って、1年目はビギニング、2年目はコラボレーション、3年目はオールウェイズ、と3年計画を立てて取り組み、今年度が3年目となります。そもそも収益事業ではありませんし、実績がないと企業支援をお願いすることも難しいので、スタートアップの応援を期待して申請しました。今年度も9月11月の開催予定で、REBORN版画プロジェクト、NORENプロジェクト、手ぬぐいアートの他音楽イベントを町外会場も視野に入れて準備を進めています。3カ年継続助成に選ばれたので、今後は、小中学校や公民館との連携も進めていきたいと思っています。最終的にはイベントから脱却して通年で楽しめるエリアづくりを目指し、地域の価値を高めていきたいと思っています。

- | | |
|--|------------------------------------|
| 49 飛鳥ガーディアンプロジェクト | 61 岡山市立岡山後楽館高等学校まちなかのふるさと教育実行委員会 |
| 50 備中「聞き書き」実行委員会 | 62 邑久高等学校セトリ運営指導委員会 |
| 51 Fukiya design. | 63 CAN-Science |
| 52 明神鼻の小屋実行委員会 | 64 倉敷工業高等学校地域連携チーム「クラッコチーム」 |
| 53 La puerta | 65 倉敷市工・ものづくりチーム |
| 54 宇治学園地域連携研究会 | 66 けんもりOriHime研究会 |
| 55 エディブル・エデュケーション 岡山研究会 | 67 図工のキラリをみつける会 |
| 56 岡山学校情報化研究会 | 68 砂川の淡水魚に親しみ保護する会 |
| 57 岡山県教育工学研究協議会 | 69 清心中学校・清心女子高等学校・倉敷青年会議所 理界村実行委員会 |
| 58 岡山県女子体育連盟(Okayama Dance Life Network) | 70 玉野高校地域連携推進チーム |
| 59 岡山県美術高等学校 実務系コース | 71 寺子屋「高松」 |
| 60 岡山県立岡山御津高等学校 探究学習検討委員会 | 72 特定非営利活動法人 f.saloone |

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 25 ねりあるき楽団えっことん | 37 環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会 |
| 26 Bank Gallery @ENTER WAKE | 38 NPO法人 まんなか |
| 27 MOTTAINAIN | 39 cotocoto.coto |
| 28 リボンの会 | 40 ジーンズミュージカル制作委員会 |
| ※ 29 アグリ魅力化支援会 | 41 白石踊会 |
| 30 アテナの広場 | 42 チーム「なんで成羽でエジプトなん？」 |
| 31 ありがとうファーム チームHUB Lab. | 43 D-INTERNSHIP実行委員会 |
| 32 一般社団法人 勸進プロジェクト | 44 特定非営利活動法人 0-99おかやまおしえてネット |
| 33 一般社団法人 にいみ木のおもちゃの会 | 45 特定非営利活動法人 備前プレーパークの会 |
| 34 NPO法人 いーなプロジェクト | 46 Nagi国際交流ネットワーク(任意団体) |
| 35 岡山井協会 | 47 はやしプレーパークの会 |
| 36 お山のおうちえん | 48 彦崎地区伝統文化・文化財保存会 |

生活介護事業所ぬかつくるとこ

代表 中野厚志さん



早島町

この助成金のことは以前から知っていました。が、今回初めて申請しました。申請活動「ぬかの井戸端」では、ミニマムな新しいコミュニティづくりにチャレンジします。井戸をギャラリースペースとして地域に開放する「イドノウエ」、ぬかの利用者戸田さんがセレクトした古書店「戸田書院」、無人販売店をイメージした「ぬかるみ商店」では利用者の作品を販売する予定です。いずれもコロナ禍にも則した感じにもなるかなと思っています。どういふふうか「ぬか」と地域とつながっていくのが楽しみです。ぜひ、たくさんの方に来て見て知ってもらいたいです。それが障がい者と健常者とのボーダーレスにつながっていくと思っています。この助成金で活動を一歩踏み出すことができます。

コロナ禍にあつてこれまでは異なる対応が求められますが、様々な工夫も取り入れていただきながら、収束後も見据え活動を継続・進化していただきたいと思います。

岡山県の教育・文化をよりよいものにする先進的な取り組みがでてくるよう応援しています。

コロナの出口がなかなか見えてきません。活動に様々な制限がかかっていると思います。しかし、こんなときだからこそ必要とされている活動も多いはず。計画に柔軟性を持たせ、チャンスがあればしっかり抱んでください。

Nagi Art Space FIXA

代表 花房紗也香さん



奈義町

昨年度は不採択でした。今回はNPOOでの個別相談で財団の考えや活動についてのアドバイスをいただき、地域づくりへの視点が欠けていたことに気づきました。アートやアーティストをもっと身近に感じてもらうことで、多様なものの見方や考え方を学んでもらいたいし、奈義町を誇りに思う気持ちを育んでもらいたいです。そのため、保育園や幼稚園、ギャラリーなどでのワークショップを毎月開催します。またレジデンス（滞在制作）では、実際にアーティストと対話する機会をつくり、新しい価値感や視点を提供したいです。アーティストとしての活動だけでなく、アートを地域にどう還元していくか、いけるのかを、チャレンジしていきます。奈義町で暮らし始めて一年、地域の方々にアートを身近に感じてもらうよう頑張ります。

よりしま魅力化推進協議会

代表 笠原宏之さん



浅口市

2019年10月に発足したこの協議会は、地域に開かれた保・小・中・高が連携した学校づくり「寄島学園コミュニティ・スクール」にチャレンジしています。地域の方々が学校の運営に関わっていくという取り組みです。助成金の使途は寄島の資源を最大限に生かした教育「よりしま学」にかかる費用。この活動を始めるまで、このような助成制度があることを知りませんでした。現在は小学生と中学生が取り組んでいます。今後は保育園、こども園での取り組みも視野に入れています。今後の課題は、やはり資金調達でしょうか。持続可能な活動にしたいためには、活動を見える化し、地域や企業の方に共感していただき、協力していただく。と同時に、3カ年継続助成を受けている期間に地域の要望として行政に声をあげることができるようになればと思っています。

助成対象の活動は、社会的な意味をもつと判断されたものです。ひとりよがりにならず、いろんな人の意見に耳を傾け、継続していったほうがいいです。そのためには、活動の実績、成果を多くの人に知ってもらう発信力を高めてほしいと思います。

地域に愛され、「地域の宝」となる活動や取り組みを期待しています。

コロナ禍での活動は、本当に大変だと思いますが、このようなときだからこそできることもあるはず。新しい価値を生み出すチャンスかもしれません。皆様の活動が地域を元気にし、一人でも多くの人の笑顔を増やすことにつながるよう願っています。

2児の母親として、この1年、コロナによる休校の中で、学びの時間が止まってしまいうことに不安を感じていました。コロナ禍での学習支援の調査をする中で、有償のオンラインを含む学習塾はたくさんありますが、塾環境が近くない子どもたち、家庭環境で塾に通えない子どもたち、勉強の苦手意識から学校から遠のいている子どもたちに対する学習支援が薄いとわかりました。今回の活動では、そのような環境にいる子どもたちを対象に無償のオンライン学習をします。教えるのは大学生。大学生もどのように教えるか、どの教材を使用するかなど子どもたちの様子をみながら工夫して取り組んでくれます。行政では支援が難しいゾーンなので、まずは助成金で活動の実績を重ねていきたいです。

ハレハハ

代表 ボウズ満恵さん



岡山市

- 73 特定非営利活動法人 Pro Bono Rehabilitation Services
- 74 日本ITビジネスカレッジ地域教育推進委員会
- 75 ハレハハ
- 76 藤山ミライ会議
- 77 放送大学学生団体 科学わくわくクラブ
- 78 美作大学沖縄県人会
- ※ 79 よりしま魅力化推進協議会
- 80 LIFE
- 81 RESAS活用教育推進委員会 岡山部会
- 82 安久津 太一
- 83 一般社団法人大江戸玉すだれ 岡山社中 竹風会
- 84 鳥城軸保存会

- 85 エスバス合唱団20周年事業実行委員会
- 86 NPO法人 チーム響き
- 87 春の遠伝子上演プロジェクト
- ※ 88 OKUTSU芸術祭実行委員会
- 89 オペラプラザ岡山
- 90 鏡野鶴喜こども銭太鼓
- 91 勝山町並み体験・クラフト市実行委員会
- 92 久保山 幸輝
- 93 月下舞踏会SUMAKO KOSEKI
- 94 コンシードレ山手
- 95 作州餅保存会
- 96 倭文地区 歴史と文化を語る会

- 97 cine/maniwa
- 98 ズンチャチャ
- 99 高梁音楽祭実行委員会
- 100 田賀屋狂言会
- 101 玉野しおさい狂言会
- 102 特定非営利活動法人アートファーム
- 103 Nagi Art Space FIXA
- 104 「ニシガワ図鑑」実行委員会
- 105 はじめての「第九」たまの実行委員会
- 106 パブリック・アートを蘇生する会
- 107 平川忠（土蔵プロジェクト）
- 108 方谷研究会
- 109 M.A.P Meeting for Alternative Performing arts
- 110 みごなごみ
- 111 美作の中世山城連絡協議会
- 112 朗読塾
- ※ 113 備前里海・里山応援団
- ※ 114 地域資源を活かす高校生コンソーシアムKURASHO
- ※ 115 「倉敷市真備創作舞台育成事業実行委員会 マービーミュージカルin倉敷」
- ※ 116 一般社団法人 やかげ小中高こども連合
- ※ 117 Re-discover Tsuyama
- ※ 118 特定非営利活動法人 岡山高等学院

地域学のススめ

次世代の育成のために
地域社会と学校がパートナーになる

地域の活性化に貢献するリーダーの育成

「瀬戸内市に唯一の高校である本校の生徒が、地域の中で地域の方とともに学ぶことで、将来地域社会を担う人物を育てたいと考え、2016年度から「Be a SETOUCHI Leader」セトリの活動をスタートしました。同時に瀬戸内市役所、市民図書館、大学、地元企業などの方を委員にお願いして、活動を支えるセトリ運営指導委員会を設立しました。

地域学「セトリ」とは、瀬戸内市をフィールドとして、地域の魅力と課題を学び、地域の活性化に貢献するリーダーを育成することを目的に、総合的な探究の時間で行っている課題探究学習です。2020年度の活動目標は、「地域の魅力と課題を発見する」、「地域で自分ができることを考える」、「地域での自分の取り組みが地域や世界の問題解決につながっていることに気づく」の3つでした。

セトリでは、地域の企業や施設の見学やインターンシップ、外部講師による講義、取材や実験などを積み重ね、生徒自身が「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・発表」を一年かけて行います。昨年度の実践報告会では、「教育旅行を瀬戸内市に誘致しよう」「ハンセン病による差別／裁判について」「スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)による稲苗の食害軽減と肥料化」などの研究テーマについて、4グループ7班がポスターセッションとスライド発表を行いました。毎年地域の方にもたくさんご参加いただいています。昨年度はコロナ感染拡大のため参加人数を制限し、その代わり教室へのオンラ

地域の課題を自らの課題と捉え、地域の人たちと関わりながら、主体的に課題解決に取り組む学習「地域学」。高校生と地域の取り組みは全国的に注目されています。このコーナーでは、教育文化活動助成で応援している岡山県内の「地域学」の事例を紹介します。

邑久高等学校セトリ運営指導委員会
矢野祥子さん(教諭)

インでの配信を行いました。

取り組みを始めて5年。地域との連携が進み、地域への関心が深まることもに、自己の進路意欲も高まっています。地域の方からも邑久高校に関心を持ってもらえるようになり、活動への協力の申し出も増えました。私自身も瀬戸内市の特色や資源の豊富さに興味を惹かれるとともに、多くの地域の方とセトリの活動を通して温かい関係を築くことができました。高校生の活動を応援してくださる地域の方々には高校にとって共に歩むパートナーであり、地域学のリアリティと継続性を担保する大切な財産であると感じています。地域学は、生徒の主体性や協働性といった成長を促すとともに、邑久高校の魅力にもなっています。」

瀬戸内市に教育旅行を誘致しよう！
岡山県立邑久高等学校 有田花梨 山口あかり

1. はじめに
リーサスの結果
15~20歳の若
在人口が少ない

2. 研究目的
「自然美」が有名
魅力が認知され
ていない
若者を呼び込
む企画とは何
か？

3. 研究内容
学ぶ×楽しむ＝教育旅行プラン
ターゲット⇒ 全国の中学生・高校生
「学ぶ」⇒ 「人権教育の場」、長島へ
「楽しむ」⇒ 周辺施設で様々な体験活動

長島で学ぶこと
長島愛生園
・当時の差別の実態を知る。(歴史館での資料、学芸員からの説明、建造物、元ハンセン病患者からの体験談)
・全国のハンセン病療養所内、唯一の高校として、社会復帰を目指して学習に取り組んでいるので、学ぶことの意義について考えさせられる。また、他の入所者の方への希望になっていた。

新良田教室跡地
・全国のハンセン病療養所内、唯一の高校として、社会復帰を目指して学習に取り組んでいるので、学ぶことの意義について考えさせられる。また、他の入所者の方への希望になっていた。

周辺施設で学ぶこと
・長島愛生園
・長島愛生園
・長島愛生園

4. まとめ
・この教育旅行プランを通じて人権問題を身近な問題として考えることができるようになる。
・高齢化が進む入所者の方からの思いを継承し、差別のない社会の実現を目指す。

5. 今後の展望
・この教育旅行をきっかけにリーダーとして家族旅行などが進められると、地域の活性化につながる。周辺の飲食店や観光施設などの情報をまとめる。
・邑久高校の生徒を対象にモニターツアーを実施し、内容をさらに検討する予定。

生徒たちが作った発表資料

研究テーマ 「教育旅行を瀬戸内市に誘致しよう」 に取り組んだメンバーから 地域学セトリについて一言

岡崎帆南さん(3年生)

「セトリの活動を通じて、やり遂げる力がつきました。楽しいこともたくさんありましたが、苦労したことや大変だったこともありましたが、しかし、メンバー全員で協力しながら、最後までやり遂げることができました。」

竹内愛美さん(3年生)

「地域課題の解決のために自ら足を運び体験を重ねることで、新たな問題点や課題に気づき、瀬戸内市への関心を高めることができました。将来何かに取り組む時にも、体験して行動する姿勢が自分の強みになると思います。」

松本倖葉さん(3年生)

「私は地域の方と話すようになりました。これまでそのような機会が無かったため、初めは緊張して上手く話せませんでしたが、セトリの活動で様々な地域の方とお話するうちに、自然に話せるようになりました。」

有田花梨さん(3年生)

「地域の課題解決に取り組む中で、協力することの大切さに気付きました。セトリでは発表する機会が多くあり、発表に向けて作業分担したり、アイデアを出したりする体験を通して、協力して行動する力がつきました。」

溝田七海さん(3年生)

「私は人前で話すことが苦手でしたが、瀬戸内市のことを学ぶうちに、多くの人に知ってもらいたいという気持ちが大きくなり、発表を重ねるうちに、人に伝わる話し方を工夫しながら発表できるようになりました。」



左から、溝田七海さん、有田花梨さん、松本倖葉さん、竹内愛美さん、岡崎帆南さん



矢野祥子さん



私が、

「地域の課題と生態系を考えるきっかけに」



文・頼本ちひろ

／建部獣皮有効活用研究所 代表

「ジビエレザーって？

考えてみよう地域のこと」冊子作成
地域の課題や生態系に関わる環境問題を考えたうえで、「こんな取り組みをしている人がいるよ」というメッセージを届けることで、未来を担う世代が当事者意識と愛着を持って地域に関心を向けることに繋げていく。

野山を自由に駆け回っている野生生物。人と同じ命ある存在ですが、増えすぎてしまったことで、田畑を荒らし草木を食べ過ぎてしまおうという問題が起っています。数を調整するために地域の猟師さんが捕獲して、お肉はジビエとして食用に、皮はジビエレザーとして革製品にすることが出来ます。そのジビエレザーを使ったワークショップをしてほしいと依頼されたとき「単なるクラフト体験ではなく、地域の課題について考えるきっかけをつくりたい」という思いで活動を始めました。

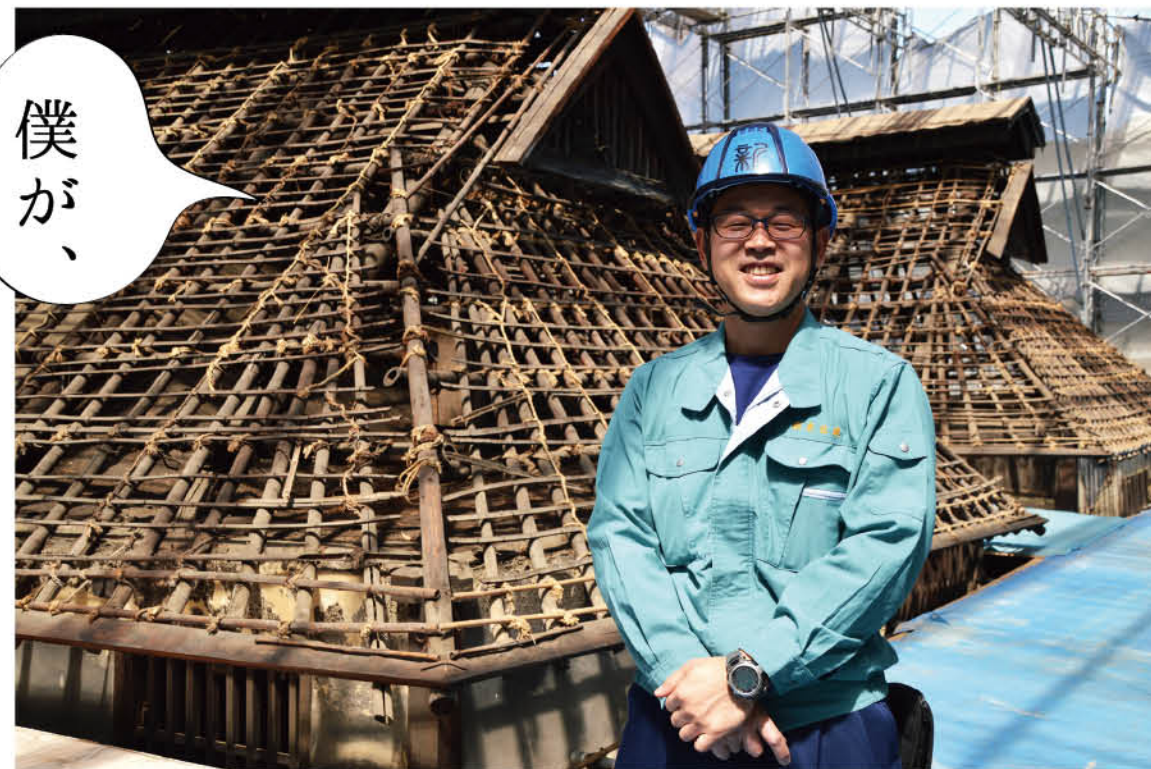


地域の中学校の見学を受け入れ、ジビエレザーの特徴、加工に使う道具の説明などを通して地域の課題を身近に感じてもらう

小学校で行ったワークショップでは獣害問題について説明した後にクラフト体験を行い、中学生には工房を見学してもらい、使う道具や下処理後の皮を見てもらいながら地域のことを話しました。生き物の命をいただくことは「かわいそう」なことですが、なぜ捕獲するのか、なぜ増えすぎているのか、どんな人が関わっているかなど一緒に考えてほしいことや伝えたいことがたくさんあります。

地域の課題や生態系について学校で習う内容も、ジビエレザーに触れながら話をする事で身近な課題として感じられるかもしれません。教室の机の上で学ぶことが地域の話と繋がっていくことで、未来を担う子どもたちにとって小さな気付きになってほしいと思っています。

僕が、



活動をはじめた理由

「匠の技を次世代へ伝え遺す
勸進プロジェクト」

日本建築の伝統工法を映像化し、インターネット配信と学校教材等の教材用映像を完成させる。3月に完成披露の報告会を行う。随時、活動風景を写真やショートムービーでFacebookへアップし、匠の技への興味、魅力配信を行う。次世代へ岡山の匠の技を伝え遺すために、長編の映像を製作する。

「伝統技術の素晴らしさを広く伝えて」



文・芥川英祐

／一般社団法人勸進プロジェクト 代表
／宮大工

高校生の時、宮大工になりたいと思っていた、奈良で修業をしました。帰国後は文化財建造物木工主任技術者の資格を取得、国宝修理から復元まで様々な現場で経験を積み重ねています。

昨年12月「伝統建築工場の技」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことで、今、伝統建築は注目を浴びています。匠の技が世界に認められたと同時に、その技が衰退の一途をたどっているのも事実です。原因は大量消費、大量生産の波に押され経済重視で長く持たない建築が増えていることだと思います。仕事柄、自分が工事をしていない現場でアドバイスを求められることもあるのですが、職人に知識と経験があれば、もっと他の方法もできたのではと感じてしまうことがあります。

そこで、勸進プロジェクトのイベントや動画配信等を通して、建築関係者だけでなく未来を担う子供たちまで、伝統技術や日本建築の素晴らしさを広く伝えていきたいです。昔の人は文化財を目指したわけではなく、人に負けないよう競った結果、素晴らしい技術が遺ったのだと思います。近年SDGsとよく耳にします

が、本来の日本建築には無駄のないSDGsが当たり前のようになり盛り返していることを知ってほしいと思います。

そこで、勸進プロジェクトのイベントや動画配信等を通して、建築関係者だけでなく未来を担う子供たちまで、伝統技術や日本建築の素晴らしさを広く伝えていきたいです。昔の人は文化財を目指したわけではなく、人に負けないよう競った結果、素晴らしい技術が遺ったのだと思います。近年SDGsとよく耳にします



お箸のワークショップの最後に、古代の木工道具やりがなんと現在の台がんなの違いを番匠が実演解説



ホアン・ゴック・ビクチャン
HOANG NGOC BICH TRAN

SHARE&CHILL!!! 代表
1997年ベトナム フエ市生まれ。2015年10月～2019年10月IPU環太平洋大学に在籍。現在、岡山大学院教育学研究科修士課程2年。趣味は料理、旅行、生け花、水彩画。(写真左)

森分志学 moriwake shigaku
NPO 法人だっぴ 代表理事

1990年岡山県倉敷市生まれ。大学卒業後は、教育系の広告代理店に勤務。2017年、NPO 法人だっぴの理事・事務局長として岡山にUターン。岡山の中高生・大学生を対象に、キャリア教育プログラム「中学生・高校生だっぴ」を岡山県内外12市町村20校以上の学校で展開。(写真右)

SHARE&CHILL!!! 代表

ホアン・ゴック・ビクチャンさん

FACE

“地域社会の一員になる”
をデザインする

ベトナム人技能実習生を対象に、日本語能力やコミュニケーション能力の向上を行う学習と交流の場「SHARE&CHILL!」。ベトナムの技能実習生たちが、日本の人とお互いの文化や価値観を理解しながら、地域コミュニティの一員になることを目指すホアンさんの思いを伺ってきました。(取材文：森分志学)

ベトナム人のホアンさんが日本に興味を持ち始めたのは、中学1年生の頃。「友達と同じクラスになりたい」という理由で選んだ日本語コースで日本語を学んでいくうちに日本に関心を持ち、IPU環

太平洋大学に進学。卒業した現在は岡山大学院教育学研究科で研究に励む傍ら、SHARE&CHILL!の活動をしています。活動のきっかけとなったのは、大学生時代にしていた司法通訳のアルバイト。ベトナムの技能実習生が暴力事件に巻き込まれたり、人権侵害や失踪事件が多発している現状を知り、技能実習生がコミュニケーションに必要な言語教育を十分に身につけていないことが原因だと思いました。

実際、技能実習生から「日本語学習の時間が足りない」という声は多数あるそうです。しかし、ホアンさんは「時間数の問題よりも習得方法に問題がある」と推察しています。一方的に教えるティーチングよりも、お互いに学び合うスタイルの方が楽しい学びになると考え、活動名にも「お互いに楽しく(CHILL)学び合(SHARE)」という思いが込められています。

SHARE&CHILL!では、日本語学習以上に日本人との交流を重視し、ベトナム料理を日本人と一緒に作ったりもしています。そこには、技能実習生が地域で見えない存在になっている現状を変えるべく、彼らが人とのつながりを持ち、地域社会に参加していく姿を理想とするホアンさんの思いが表されています。参加している技能実習生は「多くの友達と一緒にいることで、勉強したい気持ちを持ち続けられる。日本の文化を理解することもできた。」と言います。「とにかく日本語を勉強したい」と思って活動に参加した技能実習生たちが、参加当初は意図していなかった日本人との交流を通して、お互いの理解を深めながら関心を寄せていく。そんな景色がSHARE&CHILL!にあります。

ベトナム人の社会参加を深めていくホアンさんは、博士課程に進み「市民性形成と言語教育」について研究する予定。その研究で思い描くのは、ベトナム人が日本人とコミュニケーションをとりながら、お互いの共生社会をつくっていく過程で言語能力を高めていく姿。その縮小社会が、まさにSHARE&CHILL!の活動にあると言えるのではないのでしょうか。

「高校や公民館などと連携して様々な人たちと交流しながら、ベトナム人と日本人がお互いの理解を深め、地域社会の一員になっていける多文化共生社会を目指していきたい」とホアンさんは結びます。

動画づくりの基本の「き」を学ぶ —— 知的財産って知っていますか？

vol.11

and F 教室

体験記

黒部麻子／ライター

昨今はオンライン、なかでも動画で発信する機会が増えています。だれでも気軽に発信できるからこそ注意しておきたいのが、著作権や肖像権のこと。ネットに情報はたくさんあるけれど、権利関係の話は難しく、何が正しいかわからないこともあるし、全体像が見えないと、必要な情報を見落としていないかどうか不安が残ることもあります。今回の講座は、岡山科学技術専門学校の源先生から、動画づくりの際に知っておきたい法律的な注意点や動画制作のコツを幅広く学べる、とても良い機会でした。

知的財産権の中には、著作権、産業財産権などがあり、さらにその産業財産権の中に、特許権や商標権などがあります。たとえば、大ヒット「鬼滅の刃」の主人公が着ている緑と黒の市松模様。発行元の集英社が商標出願をしています。伝統柄と色の組み合わせのみでは、商標権が認められるのは難しいのだそうです。

また著作権関連で、ある映画会社のオープニングロゴを模倣したものを結婚式用のビデオで使い、300万円の罰金となった事例も紹介されました。著作権を侵害すると、「10年以下の懲役又は1000万円以下の罰金」ですから、じゅうぶん気を付けたいですね。ただし、何がなんでもダメというわけではなく、「報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内」での引用であればOKだそうです。その場合きちんと出典を明記することも忘れずに。また、著作権者への通知や使用料の支払いは必要ですが、「学校教育の目的上必要と認められる限度において」教科用図書に掲載することも認められています。著作権フリーの音源が手軽な価格でダウンロードできる「Audiostock」なども紹介していただきました。

休憩を挟んで、後半は映像制作のコツを伝授！

特に「なるほど!」と膝を打ったのは、「山場のつくり方」です。1本の映像の中で、起承転結それぞれの割合をどうしたら「魅せる」作品になるのか。1:4:2:1という黄金比があるのだそうです。おなじみの時代劇「水戸黄門」を参考に解説していただきましたが、これは映像のみならず、文章の世界でも応用できそうです。

そのほか、撮影時のイメージライナーや、音の効果的な使い方、字幕の入れ方、色の組み合わせなどなど、大変参考になるお話が目白押しでした。



参加者から「連続講座にしてじっくり聞きたい」という声が出るほど。幅広く深い話を、ぎゅっと濃縮して学ぶことができた、実に濃密な2時間でした。

「動画づくりの基本の『き』を学ぶ」は、映像や建築、電気工学などが学べる岡山科学技術専門学校で開催しました。その体験を黒部麻子さんにレポートしていただきました。



講師：源 文彰氏

／岡山科学技術専門学校
学生課長兼映像音響学科長

1971年生まれ。岡山県岡山市出身。大学卒業後、岡山県内の映像プロダクションに入社。カメラマン、編集技術者を経てディレクターを務める。多くのコマーシャルや企業案内ビデオを制作。在職中に岡山科学技術専門学校映像音響学科設立に携わり、平成13年に同学科に常勤講師として着任。卒業生は600人に及ぶ。講師の傍ら、県内スポーツチームのカメラマン、ケーブルテレビ局の番組制作、市町村の観光案内ビデオ等を制作している。9歳からサッカーを始め、現在も、岡山県内のシニアサッカーチームに所属。昨年度リーグ優勝を果たす。

歴史が生んだ郷土料理「どめせ」

1993年7月、母親の病を機に東京でのサラリーマン生活を終え、およそ20余年ぶりに生まれ故郷の備前福岡にUターン、家業の「手打うどん」を継ぐことになった。それなりに充実していた東京暮らしを断念しての帰郷、後悔だけはしたくないと気合を入れていたころ、地元の方々から「ちらし寿司の元祖といわれる郷土料理があるがいつでも食べられる店がないので一文字さんでやらねか」と誘われた。

屋号の「一文字」は、刀剣の一大流派「福岡一文字」からきており、地域に貢献できることがあればと考えていた矢先でもあり、すぐに飛びついた。どめせを復活させた地元の婦人会会長さんからレシピをいただき、何度も試作しては試食していただき、1994年4月からうどん店のメニューとなり今日まで続いている。

鎌倉時代末期、歴史教科書にも載る中世福岡の市会場近く、福岡の渡しにある飯屋でうまれたとめせは、その後広まりちらし寿司の元祖となったといわれている。当時の備前福岡は、人口5000人から10000人の中世の商都。「かつての賑わいを再び」と、2006年からは地域で協力し毎月第4日曜日の定期市「備前福岡の市」を復活。今年4月の開催で182回目を迎えている。私たちの地域の遠い先人が、中世の商都としての賑わいをつくっていた。今を生きる私たちも、形は違っても賑わいの追求はできると思う。地域の歴史文化を活かしながら、地域で賑わいが循環していく仕組みづくりは、SDGsの時代である今日、火急の課題になっていると考えている。



大倉 秀千代
OOKURA Hidechiyo

(株)一文字 会長

1952年岡山県瀬戸内市生まれ。高校生の時から実家を離れ、1993年東京からUターン、家業のうどん店と農業を継ぐ。「地域の景観は地域農業が守っている」とから、「地域農業と連携した地域の食の展開」をテーマに、「小麦から育てるうどん店」を実現。2020年には「ミシュラングリーンスター」を獲得。この輪を広げるため、2009年に備前福岡の市園地産地消推進協議会を結成、食農教育活動と地産地消学校給食を推進している。

Editor's Column

■高校時代の授業といえば、人気教師の授業を少し思い出すくらいで、あとは苦痛な時間(先生方すみません)を無為に過ごしてしまったと思うのは私だけだろうか。先生の一方的な話をしっかり聞いて、それを試験時に再現するだけと思うと楽しくはなかった。しかし、勉強し大学を卒業、就職すれば、豊かな人生を切り開くことができる。ここは我慢と信じていた。■それらを全否定する気はないが、当時自分がいた世界は、学校内だけで、生まれ育った地域のことや様々なところで働く大人たちとはほぼ無縁であった。今になって考えてみると、いびつでありもったいなかった。■今回の本誌でご紹介した「探求型学習」は、もし自分が高校生に戻れたらぜひ受けてみたい授業だ。高校生が校外へ出て、地域の人々と接しながら、自分たちで考えた仮説を検証し、発表するという一連のプロセスは、もっと勉強したいという気持ちを醸成し、仲間と議論しながら深めていくなかで多くの実践的、複合的な学びが体感できる。■財団では、このような取り組みをする高校生たちに活動助成金という形で応援している。「助成」というのは、高校生には馴染みがないかもしれないが、自分たちで申請書を作成して、審査を受けて助成金を得る。そして、活動の成果をきちんと報告し、「公益」につながっていることを体験してほしい。■募集期間を定めず、「高校生自身の申請」を前提にしている。やる気のある高校生に呼びかけていただければ、個別に相談にのります。(O)



公益
財団法人

人づくり、地域づくりを応援します
福武教育文化振興財団

〒700-0806 岡山市北区広瀬町1番5号
株式会社ベネッセコーポレーション広瀬町社屋
TEL:086-221-5254 FAX:086-232-3190
URL: <http://www.fukutake.or.jp/ec/>
E-MAIL: eczaidan@fukutake.or.jp



機関誌 不易 FUEKI vol.75 2021.5.25

編集・発行:

公益財団法人福武教育文化振興財団

制作: 株式会社吉備人

デザイン・イラスト: タケシマレイコ

印刷: 研精堂印刷株式会社